

# 講習現場で感じる

# 高齢運転者の特徴・特性

京都府公安委員会指定

山城自動車教習所

瀬川 誠

# はじめに

- 京都府南部に位置する指定自動車教習所です。
- 京都市内とは異なり、交通インフラが進んでおらず、車が生活の移動手段となっている地域です。
- 2校所(山城、姉妹校・山城田辺)で年間、約6,000名が高齢者講習を受講しています。
- 受講者の約70%が自分で運転して来られます。

# 講習前

- ①ほとんどの受講者が講習開始の1時間以上前に来所されます。
- ②「どんなことをする?」「免許はもらえるか?」という不安を示す声が聞かれます。
- ③ゆっくり座って待つ人がほとんどですが不安からか教習所内を歩き回る人が散見されます。
- ④講習料金が高いなど不満の気持ちを受付職員にぶつけられる方もおられます。

# 講習中 その1

## ①速度と安全確認のアンバランス

- 速度速い、直線だけ遅い
- 加速が強い
- 安全確認が少ない、足りない
- 安全確認見遅れる
- 操作がバタバタする
  
- 失敗してから気づく
- …ああ、早かった、…ああ、忘れてた
- …ああ、止まらなかった

# 講習中 その2

## ②曲がる前に危険予知ができない

- ・身体能力の低下
- ・教育・訓練機会少ない、無かった  
ルールや危険予測
- ・注意はするが、改善はしない？

そもそも、改善されたかがわからない

# 講習中 その3

## ③身体的な問題

- 眼が悪い、体が硬い  
→自覚はある(白内障、緑内障、疲れ眼等)
- 必死になる・・・焦る、慌てる  
そのことに集中する・・・車線はみ出す
- 運転しながら他のことに気をとられる
- 何かを突然思い出す  
忘れる(認識に時間がかかる)

# 講習後

## 受講者の反応

- 「疲れたあ」
- 「まだまだ、大丈夫、大丈夫」
- 「ありがとう」
- 「また、来ます！」
- 「次は来られるかなあ？」
- 無言で帰る人もいます。
- 忘れ物をする人もいます。
- 終了後、視力等の不安を相談する人も多い。

# 指導員が苦勞していること

- ①耳の不自由な方への対応
- ②講習への不安、不信？から自己主張が強い感
- ③講習課題の理解に時間がかかる方がいます。
- ④危険場面でのブレーキ補助は神経を使います。
- ⑤他の受講者とのコミュニケーションが苦手な方への対応
- ⑥講習制度自体へのクレームについての対応
- ⑦衣服等身だしなみに問題（不潔）、また、失禁される方



# 講習で感じること

## 路上で講習を実施した

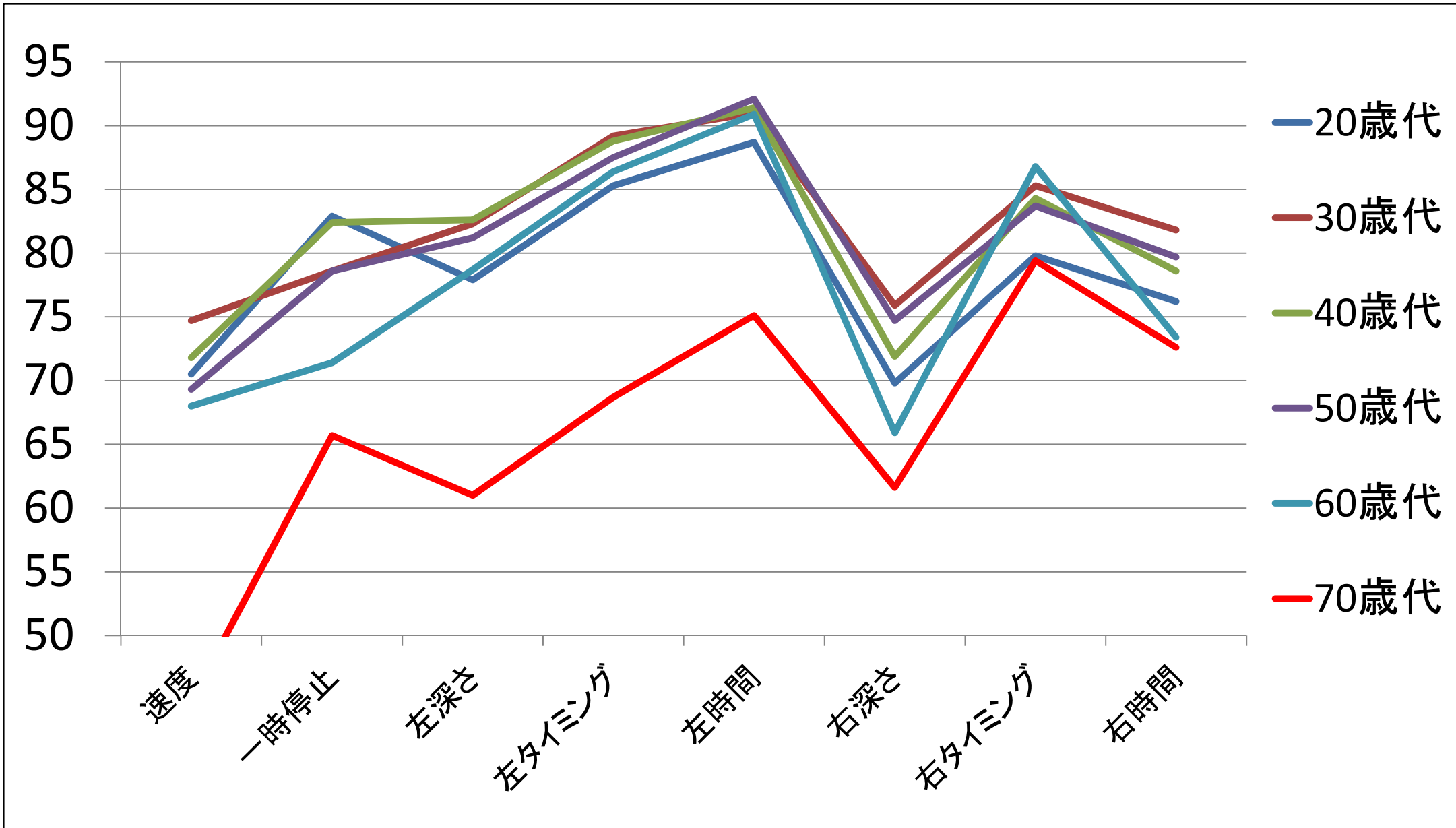
教習所のコース内だけでなく、一般路上走行を通じて、高齢運転者の行動を定量的に計測し、結果を基に運転技能の診断と矯正を行った。

(運転技能自動評価システムを用いて実施)

# 高齢者講習同等教育で路上走行



# 運転技能自動評価システムによる運転技能計測の結果



(平成23年度国土交通省安全運転推進事業)

20歳代58名 30歳代110名 40歳代126名 50歳代80名 60歳代 73名 70歳代46名

## ①カーブ・交差点の走行

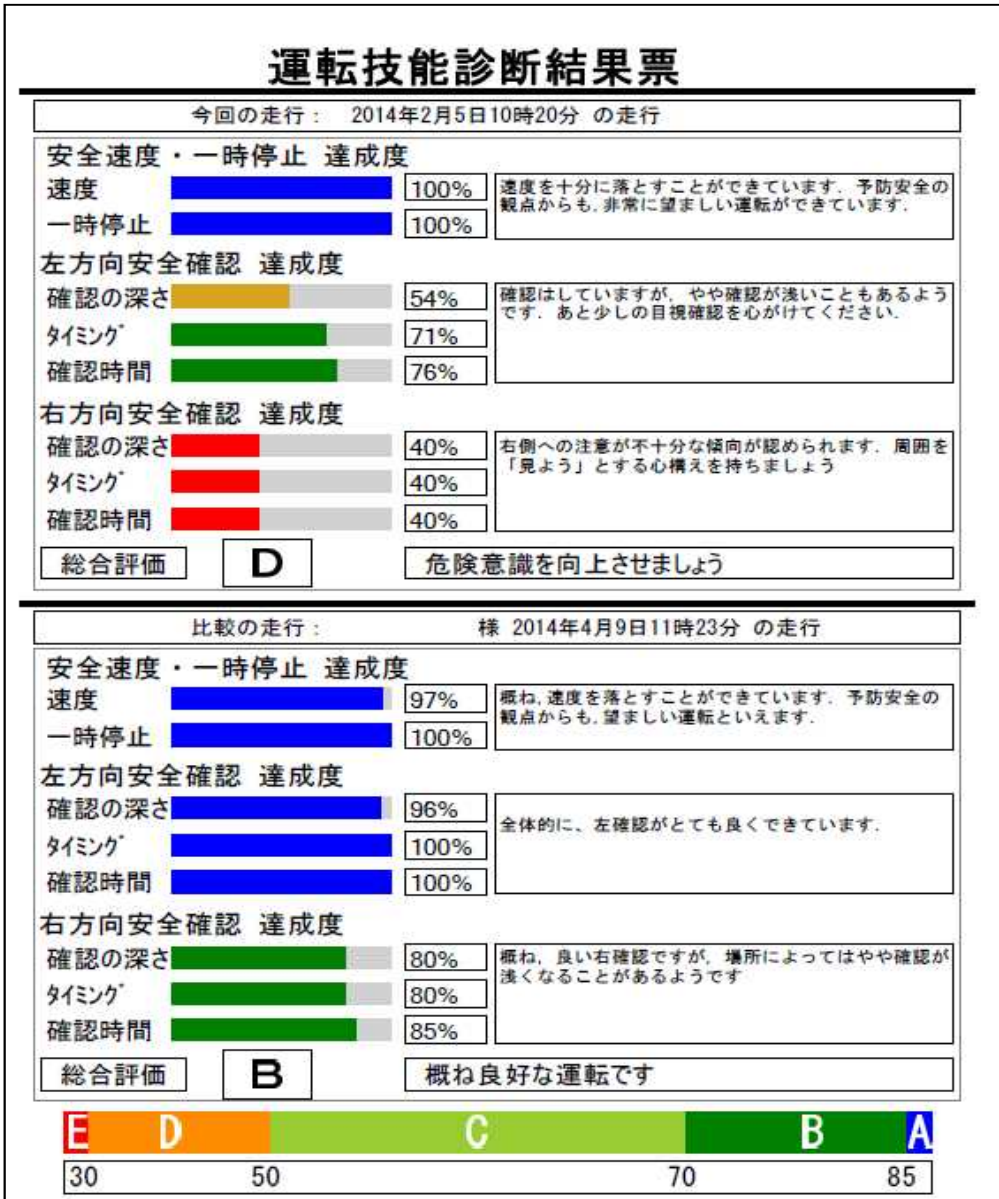
- ・ 高齢者の多くは、運転中の補償行動の一つとして「最近、ゆっくり走っている。」とあって法定速度で走行することを実践しているようであるがカーブや交差点の右左折ではブレーキの時機遅れや減速不足が見受けられる。

## ②交差点での安全確認

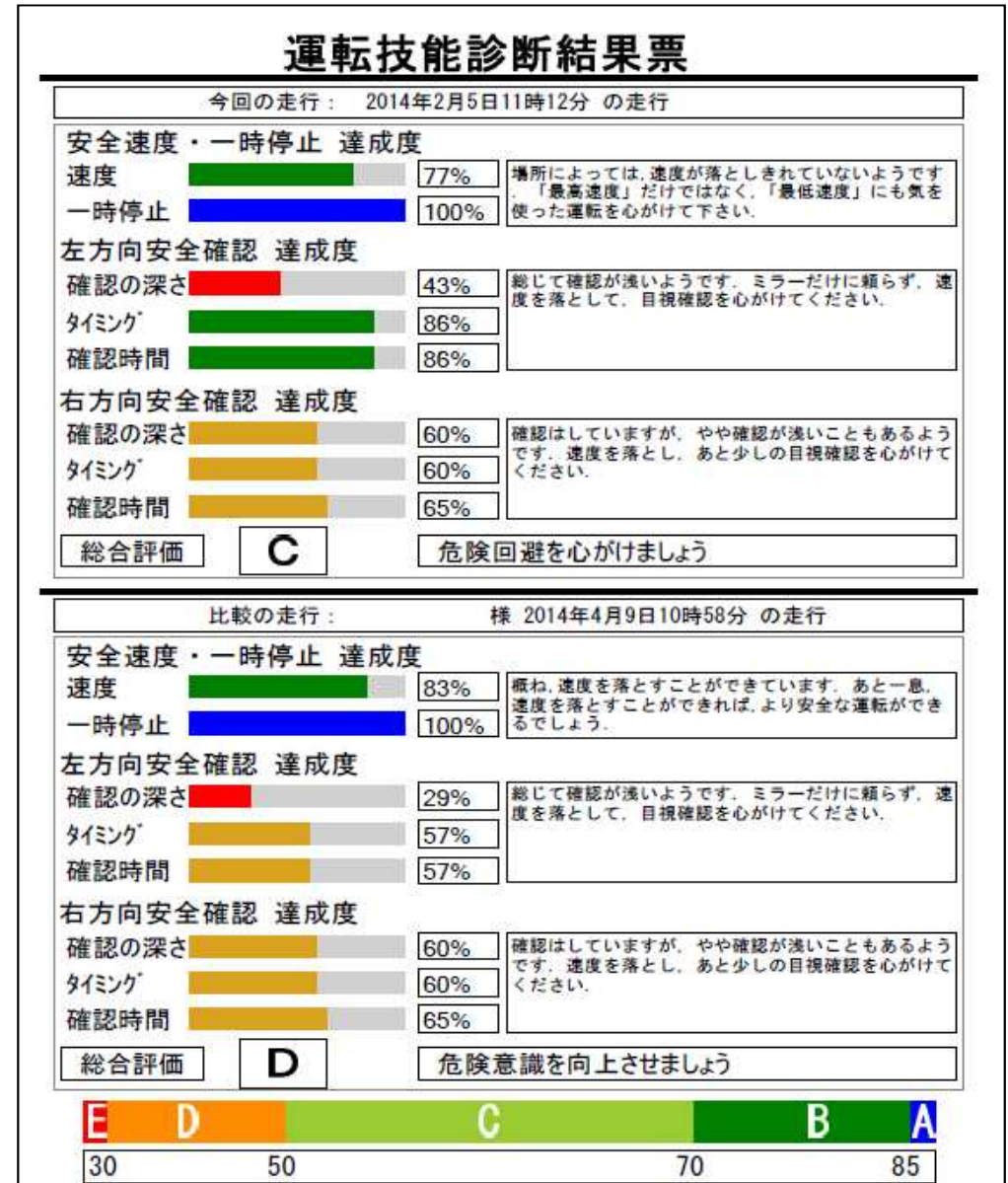
- ・ 高齢者の左側の安全確認について頭部運動を伴う安全確認の不足、左右の偏りがあることが明らかになっている。

偏りが生じていることは、交差点等において重大事故にもつながりかねない。

# 教育機会の必要性



事例1 D→B 72歳  
教育によって、右確認などかなり改善効果が見られた。



事例2 C→D 83歳  
低下が顕著に見られ、教育後も低下するケースも認知判断テストでは問題ありの第1類判定

# まとめ

- 今まで、そこそこ、うまくやってこれた。  
→ やってこられた要因は？  
これからどうする？
- 止めたいけど、やめられない事情  
→ 「できない」「危ない」と自覚しているが…

- 高齢者の事故は、認知症だけではない
  - 乗るなら鍛える(教育)
  - 教習所での短時間の練習機会を設ける。
    - … 公的補助を期待
- 免許返納の話をする方が増えてきた。
  - 返納のメリット・デメリットが周知されていないのではないか？

